

## 平成29年度南部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議録概要

### 1 開催日時

平成29年7月18日（火）午後3時05分から午後4時10分

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 7名出席（1名欠席）

委員 井上委員 小林委員（副部会長） 濱崎委員  
町田委員

専門委員 石田部会長 瀬川委員 森本委員

#### (2) 県関係

森局長 岡田副局長 久保津波減災部長 割石経営企画部長  
竹岡保健福祉環境部長 村上産業交流部長 神野県土整備部長  
杉山政策調査幹 他

#### (3) 市町関係

阿南市：松内企画政策課長 那賀町：新居総務課長  
牟岐町：浜内総務課長 美波町：礒野総務企画課長  
海陽町：戎谷まち・みらい課長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

平成28年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

#### (3) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会委員名簿
- ・ 平成29年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会配席図
- ・ 資料 1 平成28年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価の概要（案）
- ・ 資料 2 平成28年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（案）
- ・ 資料 3 南部圏域課題解決プラン（平成29年3月）

### <発言概要>

（事務局）

本日は委員8名のうち7名に御出席いただいております。当評価部会設置要領第5条第2号の規程によりまして、部会に属する委員の総数の半数以上の出席がありましたので会議は成立とさせていただきます。

（局長）

(あいさつ)

(事務局)

議事につきましては、徳島県南部地域政策総合会議設置要領第5条第1号に基づきまして、部会長に進行していただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

(部会長)

それでは、議事を進行して参ります。本日の議題の平成28年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(政策調査幹)

(資料1により説明)

(部会長)

それでは、ただいま説明のありました平成28年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)についての御意見、御質問、さらには南部圏域振興計画への御提言も含めまして、幅広い御意見等をいただければと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

(A委員)

すっかり忘れてたんですけど、すみません。去年、「厳しく、厳しく」と言ったのが、かなり出ているようで、Bがかなり増えたなと思って。

それで、見させていただいたら、数字で見るとそんなに悪くないのに何でかなというのがあったんですよね。横並びだからBになったのかな。でも、去年だったら、それは完全にAになってるよなと思ってたことなんです。

それがなぜ今年はBと書かれたのかというのを、文章で見る限りはわからなかったんですね、こちらとしても、感覚的に。やはり、何でも数値で表さないと、こちらとしてもそれに実際に取り組んでるわけじゃないので、わかりにくかった部分があったんですけれども、今の説明を聞いてて、よくわかりました。

ただ、厳しくと言っておいて、ちょっと厳しすぎるかなと思って。これ別にAでもいいんじゃないのかというのもあるんですよ。それはどうしたらいいですかね。

(部会長)

どうぞ。

(A委員)

はい。この県南ならではの産業、プラン2(大プラン)の8(小プラン)ですね。これは、別にCになさなくてもいいんじゃないかなと思ってますよ。だって、14.5に上がっているし、別に下がったものは何一つないのに、何でかなと思ったりしたんです。Cを1個残しとかなあかんからかな。違うんですよ。

それと、あともう1個が、プラン4（大プラン）の21（小プラン）、鳥獣の方も、Bじゃなくても。4集落で、まあ増やしていただくならありがたいんですけど、これもAでもいいんじゃないかなとは思いました。

あとは、御説明聞いてて、今後の取組みにさせていただきたいので、そんな感じでいいかな。とても今回はよくわかりました。

（部会長）

ナンバー8がCをBで。

（A委員）

林業のアカデミーも、えらい効果が出ていると思いますので。

（部会長）

あともう1個が。

（A委員）

21です。私はですよ。

（部会長）

という御意見ですが、他の委員さん、いかがでしょう。まずは。

（A委員）

でも森林のことなので、G委員さんがおいででないけんね。私としては微妙です。御意見お伺いしたかったですけどね。

（部会長）

もし御異論なければ、A委員さんの意見で、それぞれ2つ修正してもいいかなと思います。よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、プランの番号で言いますと、8番をCからB。21番をBからAということにしたいと思います。

ぼくから一つよろしいですか。

ナンバー5ですけど、学校安全ボランティア、これは28年度は2,500。これは3,500の間違いですか。先ほど、すべて指標が上がっているというふうな説明があったような気がするんですが。27年度実績が3,300で。

（経営企画部長）

2,529が正しい数字です。

確認いたしましたら、学校安全ボランティアの登録というのは、学校の管理者の方々のいろいろな考え方なり方針で、毎年度決まっていくんですけども、そういった関係で、毎年若干ブレが出てくるというようなお話でございました。

南部圏域としては2,000人以上が目標で、目標は十分達しておりますので、Aという評価をさせていただいております。

(部会長)

若干というには、えらく大きく減ってるような気もするんですが、その考え方の違いでっていうと、例えばどういう変更があったんですかね。

(経営企画部長)

ボランティアを、保護者の方全員にやってもらうべきという考え方の管理職の方もいらっしゃるし、選ばれた方に従事していただいたらいいんじゃないかという考え方もいらっしゃるの、毎年、管理職の方が替わったりした場合に、若干上下するということです。

減っている部分につきましては、今後研修会等の中で、必要性について訴えて確保に努めていきたいと考えております。

(部会長)

はい。ありがとうございます。わかりました。  
他、皆さん方、いかがでしょうか。

(B委員)

前回に比べて、A委員さんの指摘があったからか、Aでもいいのではと思うのがBになっていますし、2番(小プラン)のところの、水害に対する面とか、Aの花マルをあげたいぐらい、良くしていただいています。

Aの中でも、3段階をつけてもいいかなと思うぐらい。Aの中でも、Bに近いAだったり、すごいAだったりするのを、年度が増す毎に感じています。

ただ一つ、5ページの17、18なんですが、私、「四国はひとつ、道は8の字」という女性フォーラムの委員なんですけど、東京に女性ばかりで集まって、「道を付けてください」というようなフォーラムの委員で参加をしまして、ずっと何年も、海部道路の要請などに参加してるんです。

11月18日にも、また文化村で大会をするというのも、もう決まっているんですが、津田までは32年度に完成と出てきてるでしょ。日亜化学までのところは、何年までにできるというのは、未だに全然表示がない中、「海部道路、海部道路」と言ってるんですが、この27年度もそのまま、28年度もそのまま、ずっとずっとAなんですけど、いろんな集会とか、いっぱいしてるのに、いつもいつもそのままAというのが、活動してて、Aの中にも、まだランクがあるような感じがしました。

それと、18番の中でも、私は近くのことでないかわからないんですけど、黒河バイパスは完成していただいて、道もできて、あそこの部分だけ広くなっているんですけど、そこの部分だけできていて、その前後が全然できてないんですけど、それはそれで仕上がっているの、Aかなと思うんですけど、何か宝の持ち腐れというか、せっかくいい橋がついているのに、そのままというのは。

次の9月に発言しないといけないですかね、これは。

(部会長)

いえ。いいです。言ってください。

(B委員)

ちょっと不思議だなと思いました。

27年度にAと思っても、そのまま高速道路のことなんかは、すごく陳情に行ったり、活動をしているのに、いつもそのままの文句でA、A、Aときているのが、何かせっかくやっているのにとと思うので、意見を言わせてもらいました。

(部会長)

はい。ありがとうございます。  
御意見でも結構でございます。

(C委員)

4番(大プラン)の自然とともに歩む地域づくりの(2)自然エネルギーの利活用で、23番の移動式水素ステーションって、既に移動式の車があるようですが、水素活用の促進に向けた取組が、全然見えないというか、どこでしているのかなと。

最近、フェイクニュースとか言って、SNS上で、日本は電気自動車、プラグインハイブリッドとかの開発が遅れてて、世界に遅れをとっていると。ほんまかどうかわからないんですけど。これに絡めて、水素より電気と違うのかなと思ったりするんですが、利活用の促進をされてるのかなというのが、目に見えないというか。

県庁にある水素のスタンドも、あんまり車が停まっているのを見たことがないので、これAというのもよくわからんなど。次世代エコカーによる電力供給の取組は、やられているのは目に見えてわかるんですけど、水素だけちょっと。水素って言ったら、何か怖いイメージがあって、爆発するんじゃないかなというのもあります。

(部会長)

はい。

もし何か、この水素ステーションの整備に絡めて、何か取組の状況とかで御説明していただけることがあればお願いします。

(経営企画部長)

移動式の水素ステーションについては、徳島市内でトラックの形で移動できる水素ステーションが整備されていて、当然、県下全域に普及促進していく必要があるということで、昨年度で申しますと、11月に活竹祭で、移動式ステーションとセットで燃料電池自動車、トヨタのミライを南部健康運動公園で初展示して、南部圏域でも普及・啓発という形で取組は進めています。

何分、ステーションの普及というのは、当然自動車が普及しないと、なかなかステーションを設置してもコストの問題がありますので、その両輪を合わせながら、県庁では、自然エネルギー推進室という部署がございまして、そちらで推進を図っているところであります。

爆発のおそれについては、確かに水素は、かなりの気圧で充填して、充填した水素を電気に変えて動力にするという形ですので。ただ、充填するところは、かなり気圧に耐え得るような設計がされているという話は聞いたことがあります。

(C委員)

ハードは、ちゃんと整備をにらみながらやられるということをお納得しました。

(B委員)

追加で、20番の浄化槽が集計中ということでBなんですけど、この説明をお願いします。

(保健福祉環境部長)

合併処理浄化槽の処理人口について、これは毎年9月ぐらいに集計するというので、今まだ数字が出ていないものですから、そういう評価になっております。一般の御家庭から排出される生活排水というのが、川や海など公共用水域の汚れの原因となっております、きれいな水環境を創造していく上では、生活排水を適正に処理していくのは、大変重要であると考えております。

県では、これまでもすべての県民の皆様が快適で安心して暮らせる生活環境を実現するために、県内全域において、効率的かつ適正に、生活排水施設が整備され、活用されるように、市や町とも緊密に連携して、積極的に推進しているところでございます。

生活排水処理の方法には、皆さん御存じのように、公共下水道でありますとか、農林漁業の集落排水の施設でありますとか、そして単独の合併処理浄化槽などがございまして、それぞれの地域の実情に応じて、市町の計画に合わせて整備を進めているところでございます。

平成30年度の目標達成は、32,000人が目標となっておりますけれども、圏域内で大体10万人少々の人口になっておりますので、3割ということになりますと、27年度の実績は、25年度と比べまして900人弱増えておるところではあるんですけれども、この部分で言いますと、厳しいと考えておまして、ここはBとしております。

今後、特にこの生活排水の処理については、農業集落排水でありますとか、いろんな方法がございまして、地域の実情に応じた形で進めていく部分について、県としてもしっかりと支援していきたいと思っております。併せまして、県民局といたしましては、特に合併処理浄化槽については、よくお聞きになる法定検査の受検率が低いというような話がどうしても出てきますので、法定検査でありますとか、保守点検ですとか、清掃等の適正な維持管理が行われてはじめて、その機能が発揮されるというところがございますので、しっかりと周知・広報等に努めること、法定検査受検率の向上に向けた取組も併せて力を入れているところでございます。

(B委員)

法定検査を受ける案内って、非常にくどいくらい来るというか。

私、たまたま近くの美容院に行ったら、みんながワイワイ言っていて、「どうしたの」と言ったら、その美容院の家に案内が来て、「これってしないといけないものか」と。私がたまたま居たら、「ちょっと市に電話して」と言うので電話したら、しないといけないものと。最近、新しい家を建てると、

阿南市なんですけど、補助をもらっているから受けないといけないというのが、前以上に周知ができていたような気がしたので、Aでもいいのかなと思って質問させてもらったんです。前よりも非常に関心度が高くなっていますし、業者の方から、維持の検査をしようというセールスみたいなものもいっぱい来ています。

(保健福祉環境部長)

設置は最近、新築の場合は合併処理浄化槽になってきているんですけども、本当に適正に維持管理していただかないことには、結局そのまま汚れを流してしまったのでは意味がありません。

御意見ありがとうございました。今後とも、しっかりと周知・啓発を進めてまいります。

(県土整備部長)

部会長失礼します。先ほど海部道路のお話ありがとうございましたので、少し補足させていただいてもよろしいですか。

もちろん御存じのお話と思えますけど、海部道路につきましては、平成27年4月に牟岐町から東洋町野根間の計画段階評価を終えまして、現在、国土交通省において都市計画決定に向けた諸調査を行っているところです。

なかなか進まないというお話ではございますけれども、県では、事業化に向けた取組を一層加速させるということで、国・県・海部3町・学識経験者・地元経済界などで構成する「海部の未来・まちづくり懇談会」を開催しまして、海部道路を見据えた持続可能なまちづくりに向けた議論を重ね、昨年9月27日に「海部の未来・まちづくり計画」を取りまとめて、海部道路が地域の安全・安心の確保はもとより、地方創生にとって不可欠な社会資本であることを明らかにしたところです。

また、地元の海陽町では、海部道路と合わせて整備する突喰地区地域防災公園につきましては、これも国・県・町・地元関係者から成る計画検討会をつくって議論しまして、昨年12月8日に公園の位置や規模、防災公園の役割や整備方針を定めた基本構想を取りまとめたところでございます。

現在、突喰地区地域防災公園のレイアウトや海部道路との接続など、より具体的な基本設計を進めておりまして、この基本設計が海部道路のルート・構造等の検討と密接に連携することから、この防災公園の早期具体化に向けまして、連携して検討を進めるとともに、早期に都市計画の手続きに着手できるよう積極的に取り組んでまいります。

道路は繋がってこそ、その機能を発揮するというので、今後とも、地域の皆さまの熱意をしっかりと受け止めながら、国や地元町と連携して、海部道路の一日も早い事業化に向けて、全力を傾注して参りたいと考えておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

それと、もう一点、阿南一小松島線の黒河が宝の持ち腐れっていうお話が出たんですが、当然ながら、予算の状況等もございまして一気にはなかなかまいりません。ただ、黒河の付近、やはり道路の線形が悪くて、上の狭い急カーブのところもございまして、黒河の少し手前、阿南側の東醍醐というところで、昨年度から一部道路のショートカット、とんがっているところをカットして、道を拡げて線形をよくするような工事の設計をしまして、先

般設計ができたところですよ。近々、用地測量、それができたら工事ということで、順次進めていきたいと思っておりますので、御理解ください。よろしくお願ひします。

(B委員)

質問にお答えいただいたので。  
日亜化学の前は、いつできるというのは。

(県土整備部長)

それは高速道路の話ですかね。  
御存じのように、NEXCOがやっております鳴門から徳島東の沖洲までが有料道路になるんですけど、あれが平成31年度までの開通目標ということで大分前からおっしゃっていました。

そこから南は、阿南、日亜さんの前までの間は、新直轄区間ということで、国の方でやっていただいているんですけども、今まで、「早く開通目標言ってくれ」と言いつつ、なかなかできておらんかったところが、昨年になって、北の方の一部ですけど、津田の新しい地域活性化インター、沖洲マリンピアから津田までなんですけれども、平成32年の開通目標が出ました。

そこから南については、まだ目標は言っていないんですけど、やはり、32年と開通目標を言っていたということ、そこから南の分につきましても、事業の進め方の起爆剤になっていくのかなと。全体として事業費がたくさん付いて、事業が進んでいく要素になっていくのかなと期待しているところでございます。

いつというのは残念ながらはっきり言っていないのであります。

(D委員)

質問なんですけど、4番(大プラン)の自然とともに歩む地域づくりで、19番(小プラン)がB判定になっているんですけども、「海からのめぐみ」を活用したまちづくりの参加者数が、結構600人ぐらい下がってるんですね。この要因というのはどんなことがあるのか、少しお伺ひしたいと思ったんですけど。

(保健福祉環境部長)

「海からのめぐみ」を活用したまちづくりの参加者数でございますが、従来から、千年サンゴの保全活動でありますとか、ビーチコーミングをやっておりまして、さらに、NPO法人日和佐まちおこし隊と連携したイベント、また、牟岐町の千年サンゴの日の記念式などの参加者数を実績として数えているんですけども、平成27年度は、単年度の事業として、漂着物学会を誘致いたしましたして、その実行委員会で関連行事を多数実施いたしましたので、その分が増えたということです。

この数値目標で申しますと、平成30年度の1,900人に向けて順次増やしていくということで、平成27年度は、目標1,000人に対して1,890人ということで、かなり多かったのが、その学会の誘致でございます。

平成28年度は、1,300人の目標に向けて、ほぼ目標は達成したつもりではあるんですけど、今後も、地域にいろんな方を呼び込んで、海のめぐみ

を享受していただく必要があるということで、前年度よりも下がっておりますので、こういう形にさせていただいております。

（E委員）

ちょっと教えてください。評価の方は別にいいんですが、1の（1）ナンバー2の南海トラフ巨大地震や風水害に対するハード対策の推進ということで、私は、工事運営には疎いものですから、平成27年から28年にかけて、「事業着手・促進」から、平成28年に「工事促進」、それで「31年完成」ということでA評価となっているんですけど、これで大丈夫なんですか。

工事にかかなり時間がかかると思うのですが、28年度の段階で「工事促進」、「促進」ということは、押し進めているのか。どのようなことをしているのかとか、そういうことがわからないものですから、この指標は、私にはわかりにくいところがあります。

27年度に、例えば那賀川和食・土佐地区の整備促進は、「事業着手・促進」になっているんですが、次の年には「工事推進」。ということは、「促進」から「推進」に、これは一歩進んだと取っていいんですかね。

それから、全体的にお願いなんですけど、この資料2を見て、私たちが判断をするときに、「平成28年度実施状況及び成果」のところで、ところによっては、「いつどんなことをして、それに対しての状況、参加人数がいくらで、どのようなことをした」と詳しく書いてくれているところもあれば、ただ、「連携をした」「何とかを協力した」ということだけでは、ちょっと判断しにくいところがあるので、次年度からのお願いということで、数字としてわかっているものがあれば、記入しておいていただけたらありがたいと思います。

（県土整備部長）

まず、那賀川和食・土佐地区の事業でございますが、平成26年8月の台風11号による豪雨がございまして、これで、那賀町の和食水位観測所においても、堤防計画水位52.9mを大きく上回る54.1mの水位を記録して、和食地区・土佐地区では、279戸、床上が233戸、床下が46戸におよぶ家屋浸水被害が発生しました。

そこで、浸水痕跡の調査や河川の水位・流量などの検証結果を踏まえまして、再度災害の防止のために、平成26年8月の台風11号の浸水被害に対応した堤防整備を集中的に実施するというので、平成27年度に、床上浸水対策特別緊急事業というのを新規事業化しました。これは、平成27年度から5カ年、要するに5年間事業に集中投資しまして、やりきろうということで進めております。

ということで、この評価では、平成27年度はまさに事業着手のときなので、「事業着手」と。その後、27年5月に事業計画に関する地元説明会を開催して、御意見をいただいて、平成27年10月26日から11月6日に詳細計画に関する説明会を開催して、堤防計画の了解が得られたと。

平成28年3月からは境界立会を実施するとともに、並行して支障となる家屋の調査をしたということで、昨年6月30日から用地交渉に着手して、工事構成に合わせて、那賀川本川の築堤用地の買収及び小川橋周辺の国道及び町道の迂回路や、国道の嵩上げに伴う建物の移転を中心に、用地買収を進

めているところでございます。

工事につきましては、平成28年9月に本川の北地工区及び土佐工区というところで、樋門・樋管工事に着手したのを皮切りに、今年1月には国道迂回路の一部、3月末には町道迂回路の一部とか水路工事等にも着手しております。

今年度はさらに、八幡原工区や北地工区を含めた5工区におきまして、盛土・水路工事の進捗を図ると共に、小川橋工区というところで、国道及び町道迂回路工事を進めておりまして、年内を目途に、迂回路の供用開始を目指して進んでおるところでございます。

ということで、27年度だけでは、まだ事業を着手して、用地の説明会などをやっており、なかなか形が見えないようなことだったんですが、昨年28年に入って、実際のトンカチ工事にも大分入ってまいりましたので、ということで「推進」とさせていただいています。

もう一つ的那賀川加茂地区も同じような状況なんですが、加茂の場合は、県自ら行うところではございませんで、国が直轄で進めておるということで、「推進」を促すという意味で「促進」という言葉を使わせていただいております。

(部会長)

いずれも5カ年計画というところで、平成30年度の目標値の欄ですけど、完成が31年と書いてあると。

(県土整備部長)

そうです。事業のスキームとして、5カ年でやりきると。平成26年の台風を契機にスタートしていますので、27、28、29、30、31の5年でやるということです。

(部会長)

もう一つは、来年度に向けて、もっと具体的に書いてほしいという意見がありましたので、これは、お願いいたします。ここで、お返事をいただくことはしなくてもいいかなと思いますので、どうぞお願いいたします。

資料としては、将来的にもおそらくこれが残っていくというのもあると思います。また、我々はここで皆さんから説明を聞くことができるんですけども、これだけを見た人は、やっぱりこれで、いろんなことを判断したり考えたりすると思うので、できるだけわかるような説明を。

ただ、だからといって、あんまりボリュームが多くなるのもまた大変で、なかなか難しいところかと思うんですけど、そのあたり表現なり、具体的な数値を入れるなり、いろいろ工夫しながら、お願いしたいと思います。

(F委員)

これ29のプランがございませぬけれども、概ね順調だということですが、大変なプランばかりでございませぬので、みんなで力を合わせて。道路、河川ということで、大変なお金もかかるということでございますので。

私が見ましても、概ね順調に推移をしているのではないかと。これが、後戻りしないようお願いをしておきます。

私のところのきゅうりタウン構想でございますけれども、30年度目標、1千万の所得を20戸とあげておりますけれども、既存の農家では、なかなか1千万というのは大変な数字でございます。

また、7月から未来基金のお金をいただきまして、ハウスを建てまして、そこでまた、今期1名が日和佐で就農ということでございますので、また機会がございましたら、完成いたしましたら、ぜひ訪れていただきますようよろしく願いいたします。

そしてまた、海陽町にも、連休前に入札をいたしまして、1.5アールのハウスを建てていくことにしました。また、皆様よろしく願います。

(A委員)

F委員さん、(評価)下がってるんですけどいいですか。きゅうりタウン頑張ってるのに、Aに上げなくていいですか。

(F委員)

Aに上げておいてもらったら。頑張っているのを認めただいて。

(部会長)

いかがでしょう。

(拍手)

御異論ないようですから、6番をBからAでよろしいでしょうか。

委員の皆さんの合議というのが前提だと思いますので、御異論なければ、ナンバー6をBからAと変更したいと思います。

それと、ナンバー20を確認し忘れていたような気がするんですが、先ほどB委員さんから、こちらも評価はAでもいいのではないかとということも、先ほどの意見は含んでいたような気がするのですが。

(B委員)

私は、Aでいいと思います。9月には、多分数字が上がってると思います。

(A委員)

下がってたらどうする。

(保健福祉環境部長)

下がってはいないんですけども、伸びが十分とは…

(B委員)

でも、みんなしないといけないというふうに、業者の方が賢いのかわかりませんが、すごい宣伝ができております。

(部会長)

では20番もBからAに変更したいと思います。

その他、御意見、評価の変更に関わる部分でもいいですし、何か質問とか御提言などありますでしょうか。

(A委員)

今回B評価にしたのが多かったので、逆に評価しやすかったです。

すごい言いにくいんですよ、A評価を、しっかり見てB評価違いますかと言うのは。言い方悪いけど。B評価を、頑張ってるのにA評価違いますかと言う方が、言いやすいかなと。この前と今回の会議で、そう思いました。そして、それによって、すごい見やすかったです。

(部会長)

ほか御意見いかがでしょうか。

なければ、もうまとめに入ろうかと思えます。

それでは、最後に評価の変更について、確認をしたいと思えます。

小プランの番号でいきます。まず6番をBからA。8番をCからB。20番をBからA。21番をBからA。この4つ変更があったかと思えますが、これでよろしいでしょうか。

(異議なし)

はい。それでは、この変更をした上で、平成28年度課題解決プラン実施結果及び評価(案)を、当部会の評価としてよろしいでしょうか。全体として。

(異議なし)

南部総合県民局には、委員の皆さんからいただきました御意見や御提言を、先日策定された「徳島県南部圏域振興計画」をはじめ、南部総合県民局の施策、事業にできる限り反映していただくようお願いします。

本日は、委員の皆さんには、幅広いご御意見や御提言をいただきありがとうございました。

なお、最後に当部会の会議録に関しまして、お諮りしたいことがございますので事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

本日の計画推進評価部会の会議録につきましては、部会長と協議の上、公表させていただきたいと考えております。

(部会長)

以上、事務局から説明がありましたが、本日の会議録の内容については、部会長である私の判断により公表することとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、部会長の判断により公表させていただきます。

では、事務局へお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。

以上をもちまして徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会を閉会させていただきます。

委員の皆様、長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。

ありがとうございました。